



# 全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 田立 理／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0271  
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>

## 単協代表者会議開催

### 同日開催 自治労消防政策議員懇談会 の議員と意見交換会

2月9日(木)、全消協単協代表者会議が東京都・ベルサール半蔵門で開催され、全118人が参加した。  
冒頭、自治労から総合組織局・青木雄次局長、主催者を代表して全消協・須藤洋典会長がそれぞれあいさつを行った。

その後、自治労本部総合政治政策局・徳永佳紀政治局長より「消防職員の政治活動〜できないことは極々わずか」と題し、自治労と政治活動の関わりおよび、政治活動と選挙活動について、また政治活動を行う上での注意点について講演があった。

最後に、佐藤昭徳副会長より「全消協活動報告」として、総務省消防庁・自治労・全消協間の定期協議や、総務省消防庁への要請行動についての説明と報告および、定年年齢の引上げに関する総合研究委員会の進捗状況の報告とあわせて、消防職員委員会について説明があった。参加者からは活発な質疑および提起がなされた。

続いて、会場を東京都・都市センターホテルに移し、自治労消防政策議員懇談会との意見交換会が開催され、自治労消防政策議員懇談会の議員74人と意見交換を行った。

ブロックごとにブースを設定し、参加者はそれぞれ各地区から選出されている議員と、それぞれの消防職場の抱える課題などについて、定年年齢の引上げ、救急需要の逼迫、その他各職場の職場環境に関わることなど、個別具体的に直接意見交換し、今後につながる貴重な機会となった。



講演する徳永政治局長



単協代表者会議



自治労消防政策議員懇談会



北海道ブロックの参加者と北海道選出議員との集合写真

## PSI-JC 「救急現場の現状と課題」意見交換

<b>開催日時</b>	2023年3月28日(火) 11:00~13:30
<b>開催場所</b>	東京都・自治労会館
<b>出席者</b>	
<b>〈自治労〉</b>	平山 春喜 衛生医療局長 原生 健作 長崎県立病院(看護師) 荒川 修児 茨城県立病院(看護師) 山田 公治 茨城県立病院(診療放射線技師) 高本 麻衣 兵庫県明石市立市民病院(看護師)
<b>〈ヘルスケア労協〉</b>	上間 正彦 会長(全済労) 長野 裕幸 副会長(日赤労組) 佐々木 伸樹 事務局長(日赤労組) 関根 康雄 事務局長次長(全済労) 田村 久実子 中央委員(全済労) 大島 康 全済労福岡病院支部
<b>〈全消協〉</b>	須藤 洋典 会長 田立 理 事務局長 永榮 勝久 ユース部代表 吉永 紗弓 女性連絡会代表 金川 和生 越谷市消防職員協議会 池田 衣智子 越谷市消防職員協議会 田口 祐資 越谷市消防職員協議会 佐藤 愛郎 大分県消防職員協議会
<b>〈PSI-JC〉</b>	榎本 朋子 事務局長 窪田 摂子 事務局 石橋 佐枝子 事務局支援

### 【目的】

日常業務に加え、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの対応により、救急患者を搬送する消防職員および病院職員は、過酷な環境



須藤会長(左)と田立事務局長(右)

- ④ 医療現場から一般市民に向けて
- ⑤ 医師から救急隊員に対してハラスメントを見聞きしたことがあるか
- ⑥ 看護師から救急隊員に対してハラスメントを見聞きしたことがあるか
- ⑦ 救急隊員からのハラスメントを見聞きしたことがあるか

下の労働を強いられている。限られた人員で感染に留意しながらの処置、救急搬送先の調整など過重労働により救急現場ではハラスメントなどの多くの課題が指摘されている。

PSI-JCに加盟する自治労、ヘルスケア労協、全消協の関係者がそれぞれの立場から、現状の課題を明らかにし、課題解決の糸口を共有する。

### 【質問内容】

- ① 病院における、コロナ前後での対応の変化について
- ② 病院内でのコロナ禍の苦勞について
- ③ 病院内での人員の確保方法について

以上について、自治労、ヘルスケア労協、全消協が意見交換を行い、お互いに理解を深める機会となった。ヘルスケア労協からは救急現場の実態を知ることができ、是非今後も課題共有のために継続して行っていきたいとのお話もいただいた。全消協としても、医療機関からのハラスメントの根底にある人員問題や過酷な環境下での労働環境について共有することができた。



意見交換会の様子



# 全消協 第1回 女性連絡会・ユース部合同セミナー

2月15日(水)・16日(木)の2日開催で大阪府大阪市のハートンホテル北梅田にて、「全消協第1回女性連絡会・ユース部合同セミナー」を開催した。合同セミナーは初めての試みで、運営一同に緊張・不安が入り混じる中、59人の参加者の皆さん

とお会いすることができた。開会にあたっては、須藤会長から「各単協の取り組みなど活発に意見交換を行ってほしい」とごあいさついただいた。

1日目は、元自衛官の五ノ井里奈さんをお招きして、ご自身の体験について講演いただいた。五ノ井さんは、小学生の時に東日本大震災で被災されたことをきっかけに、2020年に20歳で自衛隊に入隊。昨年6月に性暴力被害を告発し、8月に防衛省が再調査した結果、自衛隊からの謝罪、加害者からの謝罪を受けている。現在も力強く活動されており、その体験について女性連絡会四国ブロック・三



好幹事と対談形式で講演いただいた。五ノ井さんの体験はとても壮絶なもので、告発後も世間からの心ないコメントなどを受け、「死のうと思つた」など赤裸々にお話しいただいた。しかし、昨年3月に起きた福島県沖の地震が五ノ井さんを引き留めてくれた。東日本大震災を思い出させる地震で、生きて立ち向かうことを改めて教えてくれたとのことであつた。実名で被害を訴える中の恐怖は計り知れないものがある。志を持った自衛隊という職業の中で起きた性暴力被害は、五ノ井さんの心を壊しかねないものであつたことを改めて強く感じる講演であつた。

講演後は、五ノ井さんにもご参加いただきグループワークを行った。質問も飛び交いながら、「実際に被害を受けた場合や目撃相談された場合はどうしたらよいのだろうか」と考えてみることもできた。また、相談窓口の確認や証拠をどうすべきかなども考えさせられた。五ノ井さんからは、「面談や相談などは録音することを勧める」とご教示いただいた。双方を守るために、

そして意見が変わることもあるため記録が必要とのこと。記録や録音などの発想になりにくいと気づくことができ、大きな発見であつた。グループワークでは各単協での取り組みについても共有することができ、参加者には新たな発見も多くあつたようだ。参加者からの声として、「当事者の方からのお話は貴重だつた」「また参加してみたい」「募集で参加してみても新鮮に感じた」などの意見をいただくことができた。

2日目はジェンダー平等と題し、沖縄県ニライ消防職員協議会・又吉弥篤氏に講義していただいた。ご自身の経験談・消防職場内での出来事を基にした講義であり、参加者も身近なジェンダーについて考える内容であつた。中には涙を流し受講する受講者も見られ、心に響くお話を共有していただいた。

次に、女性活躍推進と人の心を動かす会話について、全消協ユース部・上野将儀副代表の講義とグループワークを実施した。「女性消防吏員がもっと活躍するために何が 필요한のか、何をしたいか、何を考えるのか、何をしたいか」を基に、参加者間で活発な議論が展開された中には「資器材の軽量化は女性隊員だけではなく、高代を問わずすべての消防職員において必要なのではないか」といった議題も発表され、参加者一同、有意義な時間となつた。最後に、ユース部代表が2日間の総括を実施し、アンケート回答後、セミナーは閉会となつた。終了後のアンケートでは、過半数を大きく超える高評価をいただくことができた。運営一同安堵している。

女性連絡会・ユース部あわせ59人が参加した合同セミナー



講演する五ノ井さん(上)  
五ノ井さんも参加したグループワークの様子(右)

今セミナーは全消協女性連絡会・ユース部幹事が参加した「P S I I J C ジェンダー平等セミナー」の経験、知識の共有・還元を主な目的とした。女性連絡会・ユース部が合同で企画立案から運営まで共同実施した初め

てのセミナーであつた。これまでのセミナーと区別化するためハラスメントやジェンダー平等に対して重点的に主眼を置き、女性・ユース世代の興味関心を促すセミナーとなつたと感じている。アンケート結果を精査し、今後も女性・ユース部活動活発化の観点から継続した開催を模索したい。

作成 女性連絡会代表 吉永紗弓  
ユース部代表 永業勝久



女性連絡会・ユース部あわせ59人が参加した合同セミナー



# 全消協 第5回ユースStepUpセミナー



自治労青年部(上)と全水道青年部(下)も参加したセミナー

3月16日(木)〜17日(金)の2日間、全消協第5回ユースStepUpセミナーを東京都・自治労会館で開催した。過去に実施したセミナーに続くStepUpとして、16日はウェブ版・17日は参加版と、世代別に内容と開催方法を分け実施した。

ウェブ版では、「協議会入会から5年以内を目安とした協議会経験が浅い方」を対象に、各ブロックから30人のユース会員が参加。3年ぶりとなる参加版では「各県・ブロックにおいて青年ユース部長を担っている方、今後の協議会活動を担う可能性が

高いユース会員」を対象に、各ブロックから45人のユース会員が参加した。また、PSI活動の繋がりに関して自治労青年部・全水道青年部からもご参加いただいた。ウェブ版では、未組織消防の方にもセミナー受講をしていただき、全消協活動を紹介できるセミナーとなった。

ウェブ・参加版ともに冒頭、永楽ユース部代表より、主催者あいさつと本講座の趣旨を説明。「ユース層活動の活性化が今後の協議会活動には必須である。ユース世代で横の繋がりを深め、知識を蓄え、協議会活動をユース

層から底上げしていきましょう」と述べた。

ウェブ版は「協議会活動に必要な基本知識」を学習するセミナーと位置づけた。その内容は「組織の成り立ち・用語説明」「賃金について」「労働条件について」と、消防職務そのものに結び付く事項が多く、参加者は熱心に聴講をしていた。参加版は「今後の協議会活動の発展」を考えるセミナーと位置づけた。その内容は「協議会におけるユース世代の役割」「SDGs」「全水道組織とは・消火栓構造の説明」「自治労青年部と全消協ユース部

との連携について」と、消防協議会だけではなく、各産別との連携についても注目しグループワークを中心とした。参加者同士の熱い議論が展開された。

ウェブ版に参加したユース会員による終了後アンケートでは、9割を超える高評価をいただいた。「他の消防の担当の仕方やさまざまな手段の種類を聞くことができ、勉強になった」といった声や、「これまで当たり前だと感じていた職場環境が、実は他消防と異なっていることに気づけた。これをきっかけにさらに学びたい」という声をいただいた。

参加版に参加したユース会員による終了後アンケートでも9割を超える高評価で、「自身がStepUpできた」などの回答をいただいた。参加者からは「今後、協議会で模擬オルグを参考に新規職員へオルグを実施したい」「自治労と合同学習会を実施したい」という声や、「単協内の課題解決に向けて同じ市町村で働く自治労・全水道との連携は必要だと感じた。ブロック・単協単位で若年層から連携を提起していきたい」という声をいただいた。

今後もジェンダーを問わないユース世代の地位向上と職場環境改善の一助となるよう、ユース会員からの声に真摯に耳を傾け、

世代の希望に応じたセミナーとして、全消協ユース部は継続した開催を実施する。

ユース部代表 永楽勝久



参加者から高評価を得た「第5回ユース Step Upセミナー」

第10回

ILO議長集約にかかると  
定期協議の実施

3月13日(月)、ILO議長集約にかかると定期協議が総務省にて開催された。

消防が警察同視とされる考え  
方について協議を行うとともに、  
消防の24時間勤務の課題について、  
現場の実情を踏まえ説明し、意  
見交換を行った。

消防業務の歴史を遡ると、  
1948年3月7日、消防組織  
法の施行により、警察から完全  
に分離したが、その後、救急業  
務の開始、多発する自然災害、  
そして特にここ数年の感染症へ  
の対応など、約80年前と比較す  
ると消防の目的は大きく変わっ  
ていると言えるのではないだろ  
うか。

消防職員の労働環境は、休憩  
時間の自由利用の原則が制限さ  
れ、一斉付与の原則、途中付与  
の原則が確保できないなど、十  
分な休憩が取れない中、多発す  
る救急出動や火災、自然災害へ  
の対応が求められているが、疲



活発な議論が展開された定期協議

労が積み重なり判断力の低下を  
招くと、人命にかかわる事故が  
発生するおそれがある。さらに、  
近年は育児休業や介護休暇等長  
期休業後からの復帰や定年引上  
げによる高齢期職員の働き方など、  
現在の勤務体制を継続していけ

るのか、検討すべき課題が多く  
あるのが実状である。  
全消協では、今年度定年年齢  
の引上げについてのシンクタン  
クをつくっている。引き続き、  
研究を進めるとともに協議を継  
続していく。

半鐘の  
こぼれ

最近読んだ本の中  
で「クリティカル・フ  
レンド」という言葉が  
出てき

ました。日本語訳すると「批判もする友達」とのことだそうです。「大切な友人に間違いをさせない・直す」ための行為であり、「大切な友人だからこそおこなう批判」とのことです。まさに私達が行っている活動もこの「クリティカル・フレンド」で、消防という崇高な職務につく仲間が間違いを起さず安全に職務を遂行できるよう、政府・当局と協議しています。

そしてもう一つ、「活動している方には、勧告や調査が行われることが、すぐ問題解決に繋がると思っている人がいるようだが、そうではない、政府に向けての勧告ではあるが、実質的には活動している人達がそれを使って政府に実施させるために書いている」ともありました。私達は国際機関から勧告が出ていることに満足して、そのツールを上手く使えないのではないかと考えさせられる文章でした。

消協活動は消防職員が安心安全に業務を行い、その安心安全が市民の方々の安心安全につながる活動であり、だからこそ国際機関からの支持も受けていると信じています。これからも全国の仲間のため、「クリティカル・フレンド」として消協活動に邁進し、共に頑張っていきたいと思います。

岡大祐(九州ブロック幹事)

全消協ではホームページのほか、  
Facebook・Twitter・Instagramを  
開設しています!

ホームページを改修中です。  
少しずつ刷新され、  
2023年度中に完成予定です。  
ぜひアクセスしてください。

お知らせ



今後の予定

2023年6月9日(金)・10日(土)  
研究集会  
(広島市広島国際会議場)

2023年9月2日(土)  
第47回定期総会  
(函館市函館市民会館)